

令和6年度

「運営に関する計画」

最終評価

大阪市立阪南中学校

令和7年3月

大阪市立阪南中学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

・全国学力・学習状況調査結果（全国平均比）

R1 国語 +2.2P	数学 +8.2P	英語 +8.0P
R2 実施中止		
R3 国語 +4.4P	数学 +6.8P	
R4 国語 +4P	数学 +8.6P	
R5 国語 +6.2P	数学 +4P	英語 +8.4P
R6 国語 +4.9P	数学 +7.5P	

・「学校の授業はわかりやすい」に肯定的な回答をする生徒の割合

R1 89.0% R2 89.0% R3 94.0% R4 89.0% R5 81.6% **R6 86.6%**

※ R4まで「学校アンケート（生徒）」、R5より「全国学力学習状況調査」の平均

・1日当たりの学習時間

H29 2時間以上 54.8%	30分以下 15.5%
H30～ アンケート項目なし	
R3 2時間以上 53.1%	30分以下 9.1%
R4 2時間以上 49.6%	30分以下 13.1%
R5 2時間以上 51.1%	30分以下 15.3%
R6 2時間以上 53.2%	30分以下 11.7%

課題のある生徒はあるものの、家庭学習の習慣は概ね定着している。

現状に甘んじることなく、数学科における論理的思考能力や国語科における読解力・現力等の向上を図るなど、習熟度レベルの上位層のさらなる伸長を目ざすとともに、下位層の底上げを図っていくことが課題である。

・「学校の規則を守っていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合

R1 98.4% R2 96.1% R3 97.0% R4 98% R5 97% **R6 98%**

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に肯定的な回答をする生徒の割合

R1 93.9% R2 95.0% R3 96.0% R4 96% R5 97% **R6 96%**

「自分にはよいところがありますか」に肯定的な回答をする生徒の割合

R1 77.2% R2 77.3% R3 81.0% R4 80% R5 88% **R6 85%**

「将来の夢や目標を持っていますか」に肯定的な回答をする生徒の割合

R1 71.6% R2 76.0% R3 75.0% R4 73% R5 80% **R6 78%**

・不登校生徒の在籍比

R1 4.3% R2 6.5% R3 8.1% R4 6.9% R5 7.4% **R6 5.29%**

子どもサポートネットを定期に実施している。S C、S S W等と連携し、不登校生を減らす取組を推進している。

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査 体力合計点の結果（全国平均比）

男子 R1 39.26 (−2.43)	R3 42.08 (+0.90)	R4 39.37 (−1.67)
R5 44.56 (+3.24)	R6 43.89 (+2.03)	
女子 R1 48.74 (−2.43)	R3 48.99 (+0.40)	R4 45.59 (−1.83)
R5 44.98 (+2.24)	R6 50.02 (+2.65)	

* R2 実施中止

中期目標

【安全・安心な教育環境の実現】

○令和7年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を100%にする。

R5 97% **R6 97%**

○令和7年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を毎年前年度より減少させる。

R1 在籍752人 不登校生徒32人 不登校生徒率4.3%

R2 在籍734人 不登校生徒48人 不登校生徒率6.5%

R3 在籍715人 不登校生徒58人 不登校生徒率8.1%

R4 在籍783人 不登校生徒54人 不登校生徒率6.9%

R5 在籍809人 不登校生徒 59人 不登校生徒率7.4%

R6 在籍850人 不登校生徒 45人 不登校生徒率 5.29%

○令和7年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。 R4 91% R5 96% **R6 94%**

○令和7年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を83%以上にする。 R4 80% R5 88% **R6 85%**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を96%以上にする。 R4 87% R5 96% **R6 93%**

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における平均正答率を、すべてにおいて全国平均との差を+5.0pt以上にする。 R5 国+6.2pt 数+4pt 英+8.4pt **R6 国+4.9pt 数+7.5pt**

○令和7年度の中学校学校チャレンジテストにおける標準化得点を、令和3年度より向上させる。

○令和7年度の大阪市英語力調査におけるC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を60%以上にする。 R5 63% **R6 70.3%**

○令和7年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

R4 73% R5 79% **R6 82%**

○規則正しい生活を身につけている生徒（全国学力・学習状況調査の①「朝食を毎日食べていますか」②「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」③「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を90%以上にする

R5 ①90.5% ②74.9% ③87.9% **R6 ①93.1% ②84.3% ③93.4%**

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度末の校内調査における「日々の学校生活の中で学習者用端末を活用している」に対して、「ほぼ毎日」と回答する生徒の割合を100%にする。

○ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は1日以上設定する。

○令和7年度末の校内調査における「読書に親しんでいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%にする。 R4 70% R5 87% **R6 64%**

○令和7年度末の校内調査における「学校は保護者からの悩みや相談に誠実に対応してくれますか」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。

R4 93% R5 86% **R6 90%**

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育環境の実現】

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を100%にする。

○年度末の校内調査における「いじめや嫌がらせを、しない・させない・認めないようにしている」の項目について肯定的な回答をする生徒の割合を100%にする。

○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

○年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を5%以下にする。

R1	在籍752人	不登校生徒32人	不登校生徒率4.3%
R2	在籍734人	不登校生徒48人	不登校生徒率6.5%
R3	在籍715人	不登校生徒58人	不登校生徒率8.1%
R4	在籍783人	不登校生徒54人	不登校生徒率6.9%
R5	在籍809人	不登校生徒 59人	不登校生徒率7.4%
R6	在籍850人	不登校生徒 45人	不登校生徒率 5.29%

○年度末の校内調査における「学校生活は楽しくて充実していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を96%以上にする。

R4 91% R5 96% **R6 94%**

○年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を88%以上にする。

R4 80% R5 88% **R6 85%**

○アフターコロナで不安定な状態が続く中、多くの生徒や保護者が不安からくるストレスを抱えていると考えられ、教育相談等のカウンセリングなどを通じての関わりに重きを置く。

○感染症のウイルスにより、学級閉鎖・学校休業などの集団感染（クラスター）源とならないように日頃からの安全衛生面で意識の高い学校づくりを強く推進する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を96%以上にする。
R5 96% **R6 93%**

○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

76期生（現3年生） **R6 国語 4.8pt 数学 8.2pt**
76期生（現3年生） R5 国語 5.4pt 数学 8.8pt【2年次】
76期生（現3年生） R4 国語 5.8pt 数学 6.3pt【1年次】
77期生（現2年生） **R6 国語 8.7pt 数学 10.2pt**
77期生（現2年生） R5 国語 9.1pt 数学 10.7pt【1年次】

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を63%以上にする。

R5 63% **R6 70.3%**

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

R5 79% **R6 82%**

○規則正しい生活を身につけている生徒（全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を90%以上にする。

R5 ①90.5% ②74.9% ③87.9% **R6 ①93.1% ②84.3% ③93.4%**

○年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答をする生徒の割合を増加させる。

R4 87% R5 96% **R6 93%**

○全国体力・運動能力調査における体力合計点を昨年度より向上させる。

R4 男子39.37 女子45.59 R5 男子44.56 女子44.98 **R6 男子 43.89 女子 50.02**

○アフターコロナで不安定な状態が続く中、進路に向けた情報収集、提供を的確に生徒・保護者に行ない不安を解消することに全力を尽くす。

（授業日の設定、総合の時間の活用、阪南タイムの有効活用）

○アフターコロナの影響で、予定していた行事の時期や内容を変更する場合も、できる限り行事は実施する。

○中学生の時期は精神面・体力面で著しい成長期でもあるので、P B Sを強く推進し、精神面はもちろん、体力面でも積極的肯定的支援をしていく。

○年度末の校内調査における「健康について自己管理ができている」に対する肯定的な回答の割合を94%以上にする。

R4 89% R5 93% **R6 83%**

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、生徒の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80％にする。（ただし、事務局が定める学校行事ＩＣＴ活用が適さない日数を除く）

○第２期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教職員の勤務時間の上限に関する基準２「１年間の時間外勤務時間が720時間を超えない(60h／月)」「１か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を１年間に６月まで」「１か月の時間外勤務時間が100時間を超えない」「連続する複数月(２か月、３か月、４か月、５か月、６か月)のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の１か月当たりの平均が80時間を超えない」を満たす教職員の割合を20％以上にする。

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90％以上にする。

○ゆとりの日については、週１回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は３日以上、冬季休業期間中は１日以上設定する。

○年度末の校内調査における「読書に親しんでいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を87％以上にする。

R4 70％ R5 87％ **R6 64％**

○年度末の校内調査における「学校は保護者からの悩みや相談に誠実に対応してくれますか」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を95％以上にする。

R4 93％ R5 86％ **R6 90％**

３ 本年度の自己評価結果の総括

最重要目標１の【安全・安心な教育の推進】に関しては、本校の一番の課題である不登校対策に大きく力を入れた。不登校生徒等の理解について、児童養護施設や区役所等との連携を組織的に推進し、不登校や非行を予防する環境づくりに注力した。学校には入れるが、教室には入りづらい生徒へは別室登校ができる体制づくりを行い、また、放課後に居場所がない生徒へは、区役所（子育て支援）や地域の民間不登校生徒支援団体、地域活動協議会とも連携を行い「サードプレイス」という放課後の居場所づくりを行った。また、不登校生の保護者の会として「つばみの会」を定期的実施する等、不登校生の保護者へのサポートも積極的に行った。教育相談や休み時間の巡回、登下校時の指導に加え、毎週１回、振り返りシートを記入させ、情報を早く得ることで、素早くいじめ等の対応できるよう努めた。

最重要目標２の【未来を切り拓く学力・体力の向上】に関しては、生徒の学力向上を目指して、相互授業参観を実施し、教師の更なる授業力の向上を図っている。生活指導支援員や学びのサポーターと連携を行い、学習支援を行った。また、学校元気アップ地域本部事業において、定期テスト前に放課後学習会を実施する取組も推進している。

最重要目標３の【学びを支える教育環境の充実】に関しては、教育DXの推進では、全国学力・学習状況調査に文部科学省が行うCBTテスト（MEXCBT）で、学習者用端末の使用が必須となっていることから、生徒がキーボードやタッチパネル等の使い方、大文字・小文字・半角や全角の切り替え等基礎的なパソコンの入力がスムーズに行えるよう日々の学習者用端末の利用を増やし、能力の向上に力を注いだ。教職員の育成と組織づくりを推進するため、働き方改革を行った。年間授業時数を確保したうえで、教職員が定時に帰れるようにとゆとりの日を設定し、少しずつ定着してきた。また、学校の情報公開を積極的に行い、防災訓練や薬物乱用防止教室など、地域の方が学校の諸活動にも積極的に参加できるように勧め、実施することができた。

来年度以降も、引き続き着実に前に進め、よりよく生徒が学校生活を送れるよう推進していく。

大阪市立阪南中学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況																											
<p>【安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を100%にする。</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめや嫌がらせを、しない・させない・許さないようにしている」の項目について肯定的な回答をする生徒の割合を100%にする。</p> <p>○年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を毎年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査における、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を5%以下にする。</p> <table><tr><td>R1 在籍752人</td><td>不登校生徒32人</td><td>不登校生徒率4.3%</td></tr><tr><td>R2 在籍734人</td><td>不登校生徒48人</td><td>不登校生徒率6.5%</td></tr><tr><td>R3 在籍715人</td><td>不登校生徒58人</td><td>不登校生徒率8.1%</td></tr><tr><td>R4 在籍783人</td><td>不登校生徒54人</td><td>不登校生徒率6.9%</td></tr><tr><td>R5 在籍809人</td><td>不登校生徒 59人</td><td>不登校生徒率7.4%</td></tr><tr><td>R6 在籍850人</td><td>不登校生徒 45人</td><td>不登校生徒率 5.29%</td></tr></table> <p>○年度末の校内調査における「学校生活は楽しくて充実していますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を96%以上にする。</p> <table><tr><td>R4 91%</td><td>R5 96%</td><td>R6 94%</td></tr></table> <p>○年度末の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を88%以上にする。</p> <table><tr><td>R4 80%</td><td>R5 88%</td><td>R6 85%</td></tr></table> <p>○アフターコロナで不安定な状態が続く中、多くの生徒や保護者が不安からくるストレスを抱えていると考えられ、教育相談等のカウンセリングなどを通じての関わりに重きを置く。</p> <p>○感染症のウイルスにより、学級閉鎖・学校休業などの集団感染（クラスター）源とならないように日頃からの安全衛生面で意識の高い学校づくりを強く推進する。</p> <p>○保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」の項目について肯定的な回答をする保護者の割合を96%以上にする。</p> <table><tr><td>R4 95%</td><td>R5 93%</td><td>R6 91%</td></tr></table>	R1 在籍752人	不登校生徒32人	不登校生徒率4.3%	R2 在籍734人	不登校生徒48人	不登校生徒率6.5%	R3 在籍715人	不登校生徒58人	不登校生徒率8.1%	R4 在籍783人	不登校生徒54人	不登校生徒率6.9%	R5 在籍809人	不登校生徒 59人	不登校生徒率7.4%	R6 在籍850人	不登校生徒 45人	不登校生徒率 5.29%	R4 91%	R5 96%	R6 94%	R4 80%	R5 88%	R6 85%	R4 95%	R5 93%	R6 91%	B
R1 在籍752人	不登校生徒32人	不登校生徒率4.3%																										
R2 在籍734人	不登校生徒48人	不登校生徒率6.5%																										
R3 在籍715人	不登校生徒58人	不登校生徒率8.1%																										
R4 在籍783人	不登校生徒54人	不登校生徒率6.9%																										
R5 在籍809人	不登校生徒 59人	不登校生徒率7.4%																										
R6 在籍850人	不登校生徒 45人	不登校生徒率 5.29%																										
R4 91%	R5 96%	R6 94%																										
R4 80%	R5 88%	R6 85%																										
R4 95%	R5 93%	R6 91%																										

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を見る指標	達成 状況
<p>取組内容1【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>生徒に寄り添う指導を行い生徒理解に努め、家庭との連携・協力を進める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半期に1回、教育相談週間を設ける。 ・学期に1回、「いじめアンケート」を実施する。 ・生活指導代表者会議を週に1回実施し、情報の共有を図る。 	B
<p>取組内容2【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校や虐待に関する生徒の状況を的確に把握し、SC・SSW等と連携し、個々の生徒に応じた適切な支援を行う。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもサポートネットとの連携を築き有効なシステムにする。 ・スクリーニング会議にてきめ細かい情報交換を進める。 ・生徒理解・教育支援シートを100%活用する。 ・月1回不登校対策委員会を開催し、情報の共有を図る。 ・生徒の家庭での様子を把握するために保護者アンケートを年1回実施する。 	
<p>取組内容3【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>教職員・生徒が一体となって衛生管理に努め、アレルギー対応や特に感染症流行期に適切な対応をとれるよう準備する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健だよりや学校HPを通じて感染症流行時期前には学校と家庭の双方で特に日々の消毒や手洗い等の衛生管理を徹底する。 ・教職員全員でアレルギー対応について全員が少なくとも1度は実技研修を受けるように校内実践し、万一の際にも冷静に適切な対応がとれる組織を作る。 ・調理従事者と連携し、給食調理・衛生管理を徹底し、異物混入事案を0にする。 	B
<p>取組内容4【施策2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の時間を要として、教育活動全体で道徳教育を推進するとともに、生徒の心を育てる取り組みを進めるために、教員の指導力の向上を図り、教員研修を2回は実施し、指導方法の工夫・改善に取り組む。PBSの推進をする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回、「振り返りシート」を用いて、生徒の様子を把握する。 ・道徳の授業研究を伴う校内研修を年に2回以上行う。 ・人権教育に関する取組を年間3回以上、実施する。 ・生徒の意識調査として授業アンケートを年2回実施する。 	

(達成状況)
<p style="text-align: center;">取組内容 1</p> <p>○指標 1 については、1学期と2学期である4月と8・9月に、時間割の調整を行い、担任と生徒での個人懇談の時間を放課後に設けている。</p> <p>○指標 2 については、各学期の終盤にタブレット端末によるいじめアンケートを行い、生徒の意見を集約し、該当項目にチェックがあった生徒に対しては個別で聞き取りを行い、早期発見・早期対応をしているをしている。</p> <p>○指標 3 については、週1回の生活指導連絡会に加え、主任会でも綿密な情報交換を行っている。さらに週1回養護教諭、生徒指導主事にSCさんを加えたメンバーでの情報共有を行い、それぞれに連携している。また、今年度途中からSSWの方に参加してもらい情報や方針の共有をできたことは大変有意義で、複数の生徒や家庭の改善や外部機関との連携に大きく役立った。</p>
<p style="text-align: center;">取組内容 2</p> <p>○指標 1 については、生活指導連絡会にSSWを加えることで、子どもサポートネットとの連携だけでなく、自立アシストへの連携も向上している。</p> <p>○指標 2 については、スクリーニング会議として、生活指導連絡会、主任会、SC情報交換も行っており、スクリーニング会議 2 へもスムーズに連携できている。</p> <p>○指標 3 については、主に特別支援学級在籍生徒に関して実施している。その他の生徒に対しても、引き続き100%実施を目指して進めていく。</p> <p>○指標 4 については、月初めの生活指導連絡会を、不登校対策委員会と位置づけ、前月までの欠席数の多い生徒をリストアップし、情報共有をはかっている。</p> <p>○指標 5 については、家庭での様子を把握するための保護者アンケートは12月に実施することができた。</p>
<p style="text-align: center;">取組内容 3</p> <p>○指標 1 については、毎月 1 回の保健だよりや日々の教室内換気、手洗い・うがい・アルコール消毒の声掛け等の取組を通じて、現在まで感染症拡大を抑止できた。今後も感染症予防を目的とした啓発活動を継続する。</p> <p>○指標 2 については、学校給食において教職員全体対象の「食物アレルギー検討会議」、「献立会議」を実施し、教職員間でアレルギー対応への共通理解を深め、食の安全安心ルールを確立することができた。</p> <p>○指標 3 については、調理従事者が衛生管理チェックをし、給食調理・衛生管理マニュアル通りの業務点検を実施した。1 学期に調理従事者の不手際による異物混入が 1 件あったが、その1件以降、衛生管理を徹底した結果、安全安心でおいしい給食を提供することができた。</p>
<p style="text-align: center;">取組内容 4</p> <p>○指標 1 については、以前は毎週末の終学活でプリントを配布していたが、現在はタブレット端末で実施している。さらに多くの担任は、その項目の中の「友達の良かったことを書こう」の欄で出てきた内容を学級通信で紹介するなどしており、生徒たちだけでなく、保護者の安心や信頼に大きくつながっていると思われる。また、指導の際の「情報の出どころを伏せてほしい」の件の対応にも、「振り返りシートにあった情報」といくらでも有益に使用できるので、必ずすべてのクラスで継続したい。「いじめ」に発展する前の「いやがらせ」の段階でキャッチできることも多い。</p> <p>○指標 2 については、1学期に授業づくり研修、2 学期に研究授業を伴う校内研修を実施し、計 2 回行うことができた。</p> <p>○指標 3 については、第 1 学年では 2 学期から 3 学期にかけて性教育、3 学期に差別問題について 3 時間、さらに福祉学習を 3 月に実施予定。第 2 学年では、1 学期に平和学習、2 学期に性教育、3 学期に福祉学習を行った。第 3 学年でも、1 学期に性教育、2 学期に環境問題を、いずれも複数時間行った。</p> <p>○指標 4 については、授業アンケートを 1 学期、2 学期と年 2 回実施することができた。集計結果を配付し、引き続き、指導方法の工夫・改善を進めていく。</p>

次年度への改善点

取組内容 1

○指標 1 については、1学期と2学期のスタートである4月と8・9月に、時間割の調整を行い、担任と生徒での個人懇談の時間を放課後に設ける。

○指標 2 については、各学期の終盤にタブレット端末によるいじめアンケートを行い、生徒の意見を集約し、該当項目にチェックがあった生徒に対しては個別で聞き取りを行い、早期発見・早期対応をできるようにする。

○指標 3 については、週1回の生活指導連絡会に加え、主任会でも綿密な情報交換を行う。さらに週1回養護教諭、生徒指導主事にSCを加えたメンバーでの情報共有を行い、それぞれに連携している。今年度途中からSSWに参加してもらい情報や方針の共有をできたことは大変有意義だったので、次年度も引き続き実施予定である。

取組内容 2

○指標 1 については、生活指導連絡会にSSWが加わったことで、子どもサポートネットとの連携だけでなく、自立アシストへの連携も向上していた。次年度も引き続き実施予定である。

○指標 2 については、スクリーニング会議として、生活指導連絡会、主任会、SC情報交換も行っているため、スクリーニング会議 2 へもスムーズに連携できた。つながる、つながらないに関わらず「子サポ連絡票」を作成し、スクリーニング会議 2 にかけておくことが、その後のテンポアップにつながるため、可能な範囲で準備を行う。

○指標 3 については、主に特別支援学級在籍生徒に関して実施している。その他の生徒に対しても、引き続き100%実施を目指して進めていく。特に、「事案が生じた際に入力する」ということを職員全員が意識し、情報を蓄えていくことを第一歩として進めていく。

○指標 4 については、月初めの生活指導連絡会を、不登校対策委員会と位置づけ、前月までの欠席数の多い生徒をリストアップし、情報共有をはかった。また、生活指導支援員の方の家庭訪問も大変有効で、複数の生徒に改善が見られたので、次年度も引き続き進めていく。

○指標 5 については、全体的に肯定的意見が多くを占めた。引き続き、生徒の家庭での様子を把握するために次年度も保護者アンケートを年 1 回実施する。

取組内容 3

○指標 1 については、保健だよりの発行、日々の手洗い・うがいはじめとする感染症対策を継続しつつ、感染症流行拡大前には、学校HPを通じて校内の感染症状況を発信し、学校と家庭、双方の感染症予防の意識を向上させる。

○指標 2 については、今年度同様、学校給食において「食物アレルギー会議」・毎月の「献立会議」を実施し、教職員全体で情報共有を図っていく。

○指標 3 については、調理従業者による異物混入ミスを防ぐために、給食調理・衛生管理マニュアル通りの業務点検に加え、複数人で二重・三重点検を実施し、生徒・教職員に対し、食の安全・安心を提供する。

取組内容 4

○指標 1 については、「振り返りシート」から得られた情報をどのように有益に使っているかなどの実績の共有等ができるとさらにいい方向に進むと考えられる。

○指標 2 については、引き続き年 2 回の校内研修を実施していく。

○指標 3 については、各学年での対応となっているため、学校全体としてのパッケージの確立が今後の課題である。ジャンルとして平和学習、性教育、福祉学習は安定して実施できているが、差別問題（障がい者、在日外国人、被差別部落など）に関する内容については検討が必要である。次年度以降、行事との兼ね合いや他学年との体育館利用の重なりなどの解消も課題である。

○指標 4 については、生徒の意識調査として授業アンケートを引き続き、年 2 回を実施していく。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を96%以上にする。</p> <p>○中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。</p> <p>76期生（現3年生） R6 国語 4.8pt 数学 8.2pt</p> <p>76期生（現3年生） R5 国語 5.4pt 数学 8.8pt【2年次】</p> <p>76期生（現3年生） R4 国語 5.8pt 数学 6.3pt【1年次】</p> <p>77期生（現2年生） R6 国語 8.7pt 数学 10.2pt</p> <p>77期生（現2年生） R5 国語 9.1pt 数学 10.7pt【1年次】</p> <p>○年度大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を63%以上にする。</p> <p>R5 63% R6 70.3%</p> <p>○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>○規則正しい生活を身につけている生徒（全国学力・学習状況調査の①「朝食を毎日食べていますか」②「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」③「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合）を90%以上にする。</p> <p>R5 ①90.5% ②74.9% ③87.9% R6 ①93.1% ②84.3% ③93.4%</p> <p>○年度末の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答をする生徒の割合を前年度より増加させる。</p> <p>R4 87% R5 96% R6 93%</p> <p>○全国体力・運動能力調査における体力合計点を昨年度より向上させる。</p> <p>R4 男子39.37 女子45.59 R5 男子44.56 女子44.98</p> <p>R6 男子 43.89 女子50.02</p> <p>○アフターコロナで不安定な状態が続く中、進路に向けた情報収集、提供を的確に生徒・保護者に行ない不安を解消することに全力を尽くす。</p> <p>（授業日の設定、総合の時間の活用、阪南タイムの有効活用）</p> <p>○予定していた行事を時期と内容を変更し、学校生活への影響を少なくするように精選する。</p> <p>○中学生の時期は精神面・体力面で著しい成長期でもあるので、部活動の活動停止期間がもたらすマイナス面が大きいととらえて、P B Sを強く推進し、精神面はもちろん、体力面でも保健体育の授業を複数教員で対応し積極的肯定的支援をしていく。</p> <p>○年度末の校内調査における「健康について自己管理ができています」に対する肯定的な回答の割合を94%以上にする。</p> <p>R4 89% R5 93% R6 83%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を見る指標	達成 状況
<p>取組内容 1 【施策 4 誰一人取り残さない学力向上の取組】</p> <p>行事・時間割を精選し授業時数の確保を図る。その上で生徒保護者の学習面での不安やストレスを解消する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1・2年生は可能な限り今年度中に履修範囲を補う。 ・ 3年生については進路指導の観点から常に新しい情報を学校HPや通信を活用して生徒・保護者に的確に提供して不安を払しょくする。アンケートで「学校は生徒や保護者に学年に応じた適切な進路情報を提供している」の肯定的割合を90%以上にする。 <p>R4 84% R5 93% R6 86%</p>	B
<p>取組内容 2 【施策 4 誰一人取り残さない学力向上の取組】</p> <p>各教科において生徒にわかりやすい授業をさらに研究・実践し、さらなる学力向上を目ざす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の生徒アンケートにおいて「学校の授業はわかりやすい」・「先生は教え方をいろいろ工夫している」に対する肯定的な回答を97%以上にする。 <p>R4 90.5% R5 93% R6 93.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度末の保護者アンケート「子どもは、学習内容を理解している」の項目について肯定的な回答をする保護者の割合を78%以上にする。 <p>R4 76% R5 70% R6 76%</p>	B
<p>取組内容 3 【施策 5 健やかな体の育成】</p> <p>生徒自らが課題を発見し思考しながら判断し表現できるようにする。また、継続して運動が行えるようにする</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ対策を取り入れながら年間計画をしっかりと立て、水泳の授業やグループ学習・行事等ができるようにする。 ・ 年度末の生徒アンケートにおいて「進んで運動をし、体力づくりをしている」に対する肯定的な回答を80%以上にする。 <p>R4 73% R5 79% R6 82%</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

(達成状況)

取組内容 1

○指標 1 については、チャレンジテストも問題なく終えて、時数としても余分にある状況。各教科とも年間指導計画通りに終えることができる予定である。

○指標 2 については、保護者アンケートの結果はR5（79％）よりも 7 ポイント上昇し、86％であったが、目標値には届かなかった。

取組内容 2

○指標 1 については、生徒アンケートにて「学校の授業はわかりやすい」が92％、「先生は教え方をいろいろ工夫している」が 9 5 %で、数値目標には届かなかった。

○指標 2 については、保護者アンケートでは、昨年度より 6 ポイント上昇し、76％となったが、目標値にはあ

取組内容 3

○指標 1 については、コロナの感染者数が減ったことでプールの授業ではコロナ前と同じように10時間程度の実施ができている。また、柔道についてもコロナ前と同じ10時間程度の実施ができている。

○指標 2 については、保健体育の授業でスモールステップを意識した課題設定を行い、1 単元につき全員が 1 度は達成感を得られる場を設けている。達成感を感じて楽しいと思うことで運動に親しむ態度を育んでいる。生徒アンケートでは、昨年度から 3 % 上昇の82％を記録することができた。

次年度への改善点

取組内容 1

○指標 1 については、現状を維持すべく、教科と連携をはかっていく。

○指標 2 については、発信そのものは行っているため継続して行い、推移をみて対策をしていきたい。

取組内容 2

○指標 1 については、。ICTの活用、言語能力の育成を意識した構成、総合的読解力の育成の観点を取り入れた授業と、工夫をしているので継続して推移をみて対策をしていきたい。

○指標 2 については、保護者が子どもの理解力をはかる指標として学力テストが主になるが、学力テストそのものが全員が100点を取るようなものではなく、「学習内容を理解している」という文脈の取り方が保護者それぞれに違うことが結果に影響しているように思われる。現在行っている開示について継続して行い、授業改善も意識していきたい。

取組内容 3

○指標 1 については、今後も感染症に配慮しながら授業を進めていく。

○指標 2 については、よりスモールステップを意識した課題設定を行いアンケートで高い数値につなげる。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80％にする。（ただし、事務局が定める学校行事・ICT活用が適さない日数を除く）</p> <p>○1日1回、生徒が学習者用端末を活用するようにする。</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革プラン」に掲げる教職員の勤務時間の上限に関する基準2「1年間の時間外勤務時間が720時間を超えない(60h／月)」「1か月の時間外勤務時間が45時間を超える月を1年間に6月まで」「1か月の時間外勤務時間が100時間を超えない」「連続する複数月(2か月、3か月、4か月、5か月、6か月)のそれぞれの期間について、時間外勤務時間の1か月当たりの平均が80時間を超えない」を満たす教職員の割合を20％以上にする。</p> <p>○教職員の働き方改革より、教員の時間外勤務時間が超過している教員の割合を減らす。</p> <p>○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90％以上にする。</p> <p>○ゆとりの日については、週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は1日以上設定する。</p> <p>○年度末の校内調査における「読書に親しんでいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70％以上にする。 R4 70％ R5 87％ R6 64％</p> <p>○年度末の校内調査における「学校は保護者からの悩みや相談に誠実に対応してくれますか」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を95％以上にする。 R4 93％ R5 86％ R6 90％</p> <p>○心の天気、相談機能などを活用することで、生徒の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめや不登校などの未然防止や早期発見など迅速な対応を行う。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を見る指標	達成 状況
<p>取組内容1【施策6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の取組】</p> <p>一人一台端末の環境を生かし、デジタルドリルや協働学習支援ツールを活用し子どもの可能性を引き出す学びの実現に向け取り組む</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいところ見つけ、心の天気、相談機能などを活用し、毎日学習者用端末を活用する 	B
<p>取組内容2【施策7 人材の確保・育成としなやかな組織づくりの取組】</p> <p>教職員の働き方改革により、時間外勤務時間を減らす。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の一人当たり平均時間外勤務時間を40時間以内にする。 R4 45時間12分 R5 42時間21分 R6 39時間47分 ・1か月の時間外勤務時間が100時間を超えないようにする。 ・部活動に関しては、大阪市部活指針にのっとり、週当たり2日以上以上の休養日を設け、時間外勤務時間を減らす。 	B
<p>取組内容3【施策8 生涯学習の支援の取組】</p> <p>図書館司書、元気アップコーディネーターと協力し学校図書館の活性化をはかり、子どもたちが主体的に、より身近に本に親しむ習慣を身につけさせる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期中は、行事等がない限り図書館の開館を週3回は行う。 ・朝の読書週間日を年間2週間以上行う。 	A
<p>取組内容4【施策9 家庭・地域等と連携・協働した教育の取組】</p> <p>保護者との連絡を丁寧に行う。また、学校の情報公開を積極的に行い、防災訓練や薬物乱用防止教室など、地域の方が学校の諸活動にも積極的に参加できるようにする。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末の校内調査における「学校は保護者からの悩みや相談に誠実に対応してくれますか」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。R4 93% R5 86% R6 90% ・ホームページの活用により、保護者アンケートにおける「学校は情報公開をよく行っている」の項目について肯定的な回答をする保護者の割合を96%以上にする。 R4 95% R5 93% R6 91% 	B

(達成状況)

取組内容 1

○指標 1 については、端末を利用する教員が増えるにつれて端末の故障も増え、動作の遅さも安定した活用を妨げる状態になっている。

いいところ見つけ、心の天気、相談機能などを活用し、毎日学習者用端末を活用している。教員は、Microsoft TeamsやGoogle Classroomなどのオンラインプラットフォームの活用も進んで活用している。また、オンライン教材やアプリケーションソフトウェアを利用することで、生徒の学習幅が拡大している。

取組内容 2

○指標 1 については、自動採点システムの稼働等により、1 月末時点で39時間47分と目標の数値を上回ることができた。しかし、指標 2 については、減少傾向にはあるものの指導や保護者対応が多く、目標を達成することはできなかった。指標 3 については、部活動指針にのっとり、進んでいるが、時間外労働時間は改善の余地がある。

取組内容 3

○指標 1 については行事等の日を除き、昼休みの開館を週5日、放課後の開館を週2 日行っている。貸し出し冊数の推移が、5 月1年生の貸し出しオリエンテーションを含んで423冊、6 月264冊、7 月524冊と活性化されている。本のリクエストカードを記入する生徒も増えている。

○指標 2 については、朝の読書週間を1 回、2 週間設けた。また、まとめとして各学年で読書の樹を作成し、文化発表会の作品として展示することができた。

取組内容 4

○指標 1 については、進捗状況でふれたように86%から95%は飛躍しすぎる目標だとは思われたが、個別の事案1つ1つに慎重でいねいな対応を学級や学年で続けていくことで90パーセントまで上昇した。

○指標 2 については、登下校時や昼休み、集会時の移動など、グリーンロードでの安全指導をし続けることで、地域の方々からの信頼向上もはかっている。防災教育も薬物乱用防止教室も毎年計画され実施している。また、地域で活動へのボランティアによる参加も呼びかけ、多くの生徒が参加し、地域の方々から感謝の言葉をもらっている。生活指導通信だけでなく、多くの担任の先生方が学級通信等を発行されており、またホームページも連日更新しているにもかかわらず、ポイントがダウンしてしまった。

要因として、日常の姿や様々な情報を学校ホームページで発信を行っているが、すべての行事を載せることができなかったことが考えられる。

次年度への改善点

取組内容 1

○指標 1 については、毎日使うことを目標としているが、ハード面での故障は鉛筆やシャープペンシルの故障とは違い、自分で修理できないばかりか、複数用意しておくこともできないため、そういった環境に応じた利用方法を模索していくことが必要だ。

また、機器トラブル対応について、学校内で発生するICT機器やネットワークのトラブルに迅速かつ適切に対応するためのガイドラインを作成し、教職員に対応フローを共有することで生徒への影響を最小限に抑える。

取組内容 2

○指標 1、指標 2、指標 3 すべてにおいて、目標の数値は達成、もしくは、減少傾向にあり改善の方向にあるものの、引き続き、ゆとりの日の設定等、今年度取り組んだものを継続しながら、新たな働き方改革の取組の検討も進めていかななくてはならない。

取組内容 3

○指標 1 については、十分に啓蒙し利用もされている。昼休みの時間が短く、利用者が増えていかない。

○指標 2 については、目標通りに実施できているので、これを維持していく。

取組内容 4

○指標 1 については、引き続き、個別の事案 1 つ 1 つに慎重でいねいな対応を学級や学年、学校全体で継続していく。「問題行動」や「トラブル」ではないときに、ほめる言葉がけを増やしたい。信頼を得るための近道はない。

○指標 2 については、「情報公開」は実施しているが、ダウンという結果であった。「保護者にきちんと伝わっているか」を「だろう」でなく「かもしれない」で意識しなおし、より丁寧な発信を意識し、行事のみではなく、普段の学校生活の様子も発信できるように工夫していく。